

地域を広告する仕事

デザイン事務所 アイデアにんべん



箱の中には畑のイラストが！
開けても楽しい。

読谷村産
ドラゴンフルーツの箱
〈アイデアにんべん企画制作〉

地域のイベント、小さなお店や工房に関する広告やデザインが盛んだ。

那覇市天久にあるパン屋さんの紙袋には、かわいいイラスト、お店の周辺の地図、デザインがほどこされている。

「お店は障がいをもった方の就労訓練の場でもあります。近隣のお店も含めた町のマップを作りたいという依頼をいただきました。当時、パンを入れる袋が無地のビニール袋だったので、マップを描いた紙袋を提案しました。」

手がけたのは、読谷村にある、黒川真也さん、祐子さん夫婦の営む小さな事務所「アイデアにんべん」

「にんべん」は人にかかわる漢字

「アイデアにんべん」って何ですかとよく聞かれるという。

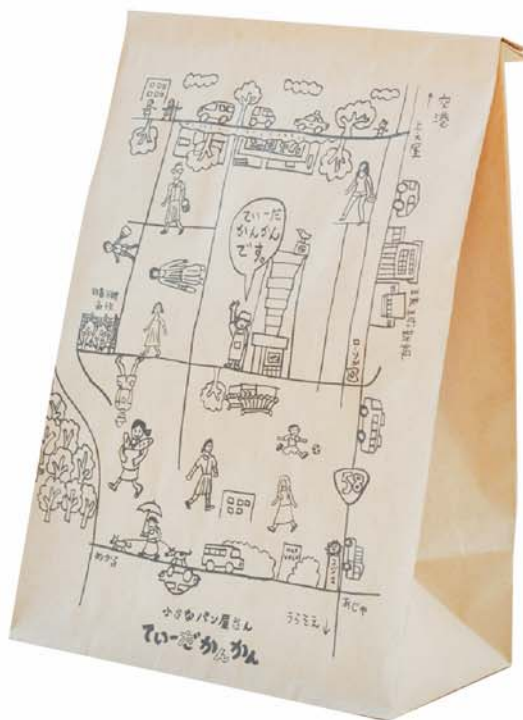
「にんべん」をもつ漢字が人に関わるものであるということ。漢字は「偏（へん）」と「旁（つくり）」からできていて、2つ揃って初めて意味をなします。」

「私たちは「偏（へん）」で依頼してくれるお客さんは「旁（つくり）」だと考えています。私たちだけの思いが独り歩きしてしまうのではないし、お客さんがこうやりたいと言っても、それがうまく世の中

に浸透しなければ意味をなさない。2つの意味があって、お互いの話をしながら、一つの伝えるものをつくっていきましようということを考えています。」

次ページにつづく

「小さなパン屋さん ていーだかんかん」
パンを入れる紙袋+地図。
袋目当てに足を運びたくなる。





やんばる畑人プロジェクトのリーフレット。イラストは色彩も美しく、見ていてほのぼのする。



「味のめしや まるたま」のプロモーション。「おみ(そ)くじ」には店舗情報が掲載されている。Tシャツデザインの企画も手がけた。

NPO法人が行う猫の里親探しのチラシ。「森で生まれたヤンバルクイナ」と「森で生まれたわけじゃないネコ」のキャッチコピーが心に残る。

サムネイルを描く、イメージを伝える

依頼主は、店舗、工房、NPO、行政と様々だ。

「『売れない』、『もつと多くの人に知ってほしい』という課題があります。話を聞いて、このお客さんだったらこのやり方が楽しくできるのではないかと、予算にあつたやり方ができるのではないかと。その人に一番あつたものを提案していきます。」

「提案はサムネイル(下書き)を描いてイメージを具現化し、お客さんと方向性を確認していきます。企画や言葉は必ず僕らでやって、プロジェクトにあわせて、イラストレーターやカメラマン、デザイナーなどのチームをつくりまします。」

真也さんの手描きのサムネイルはとても丁寧で、まめな仕事の進め方がうかがえる。

出会いや発見があるから面白い

「もちろん一筋縄ではいかない場面もありますが、仕事を通じていろんな人に出会えたり、お話を聞かせてもらえたりするのが嬉しいし、楽しいです。」

「例えば味噌のことは、味噌を作っている人から話を聞くのが一番わかりやすい。その人たちが当たり前だと思っていることの中にヒントが多いと思います。こういうことが広告のもとになります。」

ふうな光の当て方をすれば面白くできるのか、人が興味をもつのか、お客さんと話をして、お客さんから聞いたことを、どう翻訳し、どう伝えていくのか、いつも考えています。」

理想の環境を求めて沖縄へ

「大学を出てからずっと、大阪の広告会社に勤めてきました。会社が始まりからは、大きな企業の大きな仕事です。でも、小さな店や宿や工房や工場の仕事をやってみたいと思っていました。お客さんと話をして積み上げていくほうが面白いと思つたので、その仕事ができる環境を求めて、沖縄に来ました。」

「本当に人に支えていただいで、人に育てていただいでいると感じています。だからこそ、アイデアや提案で、そのお返しをしていきたいと思つています。」

つながることで広がる可能性

やんばる畑人プロジェクトの広告も手がけた。

「沖縄には埋もれているけど良いものがいっぱいあると思います。新しいものを生み出すのではなくて、いまあるものを光らせたり、結びつかせたりすればもつとよくなるということが、たくさんあると思います。」

「やんばるのポテンシャルがすごい。農家、加工する人、料理人がつながり、新しい価値がどんどん広がっていく。結びつけることで、どんどん広がっていく可能

人 面白い人に出会ったり、いい人に出会う運

沖縄では、少なくなっていく海の魚を



kukuluのリーフレット。
「まずはごはんを食べにおいで」
言葉とイラストは、優しさにあふれている

「世の中でないものとされている“3パーセントの子どもたちがいる。なんとかしないといけないし、この仕事を通して、僕らは初めて子ども食堂のことを知りました。それを伝えるためにはどうしたらいいのかということを考えていく。」「こういう世の中になっただらいいな」というところはもちろん見えています。」

「海が弱っていることを魚たちの次によく知っているのは海人です。海の中を見渡したとき、魚の数があまりにも減っているのです。海の汚染、サンゴの死滅、生態系の変化など、問題は積まれるいっぽうでした。ある日、思いのあふれた海人が言いました。海を休ませよう」と。海をよく知る漁業者ならではの声を上げ、その視点や知恵を生かしていこうと彼はNPOを立ち上げました。」

人 とうとう社会になったら楽しい

「沖縄では、はじめや貧困が原因で学校に行けない子どもがクラスに1人の割合でいると言われている。子どもたちの生活支援、学習支援を行う団体があり、アイデアにんべんはこのような活動を行う団体の広報も手がけている。」

人 思いのある人は面白い

「こういったアクションを起こす人が私たちのまわりにたくさんいます。」「面白い人に出会ったり、いい人に出会う運はもっていると思います。」

「最後の依頼してくる人の思いです。思いがある人は応援したいという気持ちになります。」

「最後は依頼してくる人の思いです。思いがある人は応援したいという気持ちになります。」

プロフィール

アイデアにんべん
(黒川真也・黒川祐子)

広告やパンフレット、パッケージの企画制作、編集、取材執筆などを承る事務所。読谷村を拠点に、「地域」を広告する仕事に取り組む。ものごとの本質をよく見て、何を「伝える」か、どうすれば「伝わる」かをアイデアと言葉から考えている。
<http://idea-ninben.com>



真也さんは、1971年京都府生まれ。大学卒業後、大阪の広告会社を経て2001年沖縄へ。祐子さんは、1973年奈良県生まれ。大学卒業後、大阪の広告会社を経て真也さんと一緒に沖縄へ。2006年からアイデアにんべんとして活動。



1, 2 読谷村のファーマーズマーケットで販売される商品のシールも手掛けた。3 伊江島名産島らっきょうを使った「いえぎょうご」のパッケージ。4 企画制作した天然はちみつつのラベル。かわいらしさに思わず手にしたくなる。